



義務教育学校 曾爾小中学校だより

令和5年(2023)3月1日
編集発行責任者 森川 敏和

学校教育目標

「心豊かでたくましく、自ら学ぶ意欲をもち、ふるさとを大切にすることの育成」

学習のまとめをしよう！

「習う」、そして「鍛える」

もうすぐ、それぞれの学年の学習を終えることになり、学習のまとめに向けてがんばっていることと思います。今日は、『習』の漢字の成り立ちについて考えたいと思います。『習』の文字をよく見てください『羽』に『白』と書きます。ある地方では、この漢字のいわれが、次のように伝えられているそうです。子どもの鳥は大人の鳥になるために、羽を白くすり減らすくらい何度も羽ばたかせて練習して、巣を飛び立っていきます。『習』の文字は、子どもの鳥のそのような姿を表しているとのこと。

みなさんは学校で、様々なことを習ってきました。例えば、学校の教科書を何度も読んで、内容を理解します。漢字も何度も書くことで覚えていきます。計算も何度も練習することでできるようになります。少しずつ走ることを毎日続けると、同じ距離を楽に走れるようになります。音楽で良い音を出すために、毎日気持ちを込めて楽器を演奏すると、心地よい音色を自然に奏でるようになります。このように、出来なかったことができるようになるには、繰り返し練習することが大切なのです。根気のいることですが繰り返しする動作は、強い頭と心と体を作ります。次の学年で困らないように、しっかりと力をつけて進級しましょう。

9年生にとっては、小中学校で学習したことが問われる高校生活が春から始まります。卒業まであと2週間となりましたが、最後まで気を引き締めて、学校生活を送って下さい。

人権作文発表会 1月25日(水)

人権とは人間としての権利、「誰もが その人らしく 生活できる」ためになくはない大切なものですね。しかし、現在も世界のあちこちで、戦争やテロによって多くの人が死んだり、家族を亡くしたりしています。日本でも、毎日のように事故や事件で命が失われる等、悲しい出来事やあってならないような事件が起きています。

人は、みんな違います。顔、体の大きさ、肌の色、性格、・・・など、みな違います。でも、みんな一人一人が、『かけがえのない命』をもって、『その人なり』に精一杯生きています。ですから、自分を大切にすることはもちろんですが、それぞれの個性を尊重し合い、『友達や周りの人』のことも大事して行ってほしいと思います。

学校生活で、誰かが『嫌な気持ち』になるようなことを言っていないか？
誰もが『学校は楽しい』と思える学校にするにはどうしたらよいかを、一人一人考えて行動に移してみましょう。



なわとび発表会 2月1日(水)

体力向上にもってこいのなわとび、1本の跳び縄があれば、1人でも大勢でも楽しめるなわとびはシンプルな運動ですが、リズムカルにぴよんぴよん跳ぶ動作は意外に難しいものです。なわとび発表会では子どもたちが、前跳び、二重跳び、交差跳び、かけ足跳びなど、自分で種目を選び挑戦していました。これまでの練習の成果を発揮して、多くの人が記録を更新したのではないのでしょうか。友だちへの惜しみない拍手も素晴らしかったです。



市町村対抗子ども駅伝大会に向けて……

市町村対抗子ども駅伝大会は、長距離走の普及を通して子どもたちの体力向上を図り、スポーツ全般に必要な基礎体力や連帯感を養うことを目的として、奈良県と各市町村等が協力して平成17年度から開催されています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になりましたが、今年度は3月4日に橿原運動公園で開催される予定です。本番に向けて、子どもたちはがんばって練習に励んでいます。

